

【下水道ICT検討会 報告書に対するコメントおよびその対応】

NO	コメント	対応
1	維持管理指針の改訂の中での管理の計画論や、アセットマネジメント国際標準化(ISO55000)などを考慮して、報告書を記載	「1.1.下水道事業運営におけるICT活用の位置づけ」においてISO55000との関係を記載した。 具体的に必要なデータに関しては、別途、下水道ナショナルデータベース構築の中で検討し、本報告書には記載しない。
2	現状でも高い技術があることを示し、これを用いて課題の解決が可能ということを示す	「4.4. ICT導入の先進事例」において、東京都・名古屋市・仙台市の事例を追加した。 パブリックコメントでのICT応募を、課題に対応する技術ごとに整理して記載した。
3	問題が起こった事例を示し、その解決のため情報システムの必要性について記載する	パブリックコメントのICTを、課題に対応する技術ごとに整理して記載した。
4	現状課題解決型も良いが、先進的な取り組みもあるので、戦略的な投資、研究開発なども必要である。自治体の先駆的な取り組みを応援する方法を検討する	「6.3.(1)③ 先駆的技術実証と全国展開」において記載した。
5	標準化の議論の場を作る検討を行う。いくつかのパターンに標準化してICT普及促進プラットフォームに載せていくことも考える。	「6.1. ICT普及促進プラットフォーム(仮称)構想(3)②」において、標準アプリケーションの選定について記載した。
6	国・先進的な自治体・小規模な自治体など、各関係者の役割分担について、誰が何を行うのが望ましいと考えているのか示す	「6.3.ICT社会の実現に向けた具体的な取り組み」において、各関係者の取り組みについて記載した。
7	ICT導入を具体論と将来像というように段階的に整理をする。現時点ではあいまいな内容であっても、方向性を示していくべき。	「4.5. 下水道事業におけるICT将来像」において将来像を示し、その具体論として「第6章」でフィージビリティスタディや各関係者の取り組み方針を記載した。
8	Web監視において、施設台帳への反映や長寿命化計画策定のためのデータ蓄積等を行っていく方向へ誘導するような記載とする	「4.5. 下水道事業におけるICT将来像(1)」において、遠隔監視の実現・データ保存や点検調査結果の電子化について記載した。
9	Web監視について、セキュリティをどのように考えているか。通信回線の信頼性についても重要だと思われるので、その点についても留意する。	「4.5. 下水道事業におけるICT将来像(1)①」において、遠隔監視のセキュリティを考慮する旨を記載した。
10	東京都でも光ファイバーを用いた広域監視・制御の取り組みをしており、これを、大都市としての成功事例として示せば良い	「4.4. ICT導入の先進事例」において、東京都・名古屋市の光ファイバーによる広域監視・制御の事例を記載した。
11	ICT普及促進プラットフォームでは、アプリケーションの比較・選択ができるような機能を持たせることを検討する。	「6.1. ICT普及促進プラットフォーム(仮称)構想(3)⑥」において、技術の比較・評価資料の提供について記載した。
12	Web監視、構内LAN回線・NTT回線・光ファイバー専用回線など、どういう状況でどの通信回線を利用すれば良いか留意する。	「4.5. 下水道事業におけるICT将来像(1)①」において、遠隔監視の実現に対する留意事項として記載した。
13	人材育成や、システムを導入していくための手順も示していくことが必要	「5.2. ICT普及促進プラットフォーム(仮称)構想(2)③⑦」において、人材育成・導入手順の提示について記載した。
14	ナショナルデータベースを利用するとデータ提出・収集の業務が楽になり、しかも使いやすいシステムとすることで、自治体が強制力がなくとも、おのずとこのデータベースを利用するような内容とする。	「6.2. 下水道ナショナルデータベース(仮称)の構築(1)」において、活用目的を記載した。 「6.3.ICT社会の実現に向けた具体的な取り組み(2)」において、下水道ナショナルデータベースと自治体の関係を記載した。
15	管理運営は、データを専門に扱う民間企業であれば公平性を保つことも可能であり、民間企業も排除すべきではない。	具体的な運営方法は、別途、下水道ナショナルデータベース構築の中で検討し、本報告書においては具体的な記載は行わない。
		以上